2000年度のハイライト

「持続可能な社会づくり」に貢献し、また世の中から存続を望まれ、発展していく「持続可能な企業」であるためには、環境パフォーマンスはもちろん、社会パフォーマンス、経済パフォーマンスの面でも優れた企業であることが条件になります。

当社は石油産業が石油製品の製造段階及びお客様の使用段階において、CO_2などの環境負荷を生み出す業種であることを認識し、事業運営における環境負荷の低減に向けて様々な取り組みを行っています。

ここでは当社の2000年度における特記的な活動について取りまとめました。

◎環境分野

●ゼロフレア・プロジェクト

アブダビでの「ゼロフレア・プロジェクト」をスタートさせました。油田から出るガスを、燃焼させずに再び地中に戻すことにより、地球規模でのCO_2排出量の削減に寄与します。2000年度にはこのプロジェクトの第1段階としてサワーガス圧入プロジェクトが完成しました。 →25ページ

●環境負荷低減

事業の中で最も環境負荷の大きい製油所では、地球温暖化防止に向けたCO_2排出量削減のための省エネルギーや、廃棄物の削減に積極的に取り組んでいます。2000年度は、1990年度比6.7%のエネルギー消費原単位削減となっています。また、産業廃棄物の分別、再資源化、減量化を進め、1990年度比で最終処分量の73%の削減を達成しました。 →15ページ

硫黄酸化物（SOx）、窒素酸化物（NOx）の低減に向けて、当社では低硫黄燃料の使用、排煙脱硝などの対策を行い、法規制を遵守するとともに、さらなる削減に向けて努力しています。 →15ページ

●環境対応技術開発

軽油の硫黄分規制強化（2005年度50ppm以下）に対応するため、脱硫触媒の性能を向上させる研究に取り組んでいます。 →31ページ

製油所排水処理設備から出る余剰汚泥を大幅に削減する技術開発に成功しました。2001年度から製油所での実証化試験を計画しています。 →31ページ

●コスモ・ザ・カードのETC対応化

コスモ・ザ・カードを使ってお客様が環境保全活動に参加できる、ETC対応の推進や、カードのポイントを金額に換算して自然保護基金に寄付する活動などを推進しています。 →29ページ

◎経済分野

●分散型電源事業

石油系燃料を用いる定置型燃料電池システムの実用化を目指し、研究を実施しているほか、マイクロガスタービンやコージェネレーションシステムの導入事業を展開し、実績をあげています。 →9、31ページ

●タンカー会社の共同化

2000年11月に、日石三菱（株）とタンカーの共同運航を目的とした日本グローバルタンカー（株）を設立しました。これにより、タンカーの配船・運航の効率化を進め、燃料消費の一層の低減を図ります。 →25ページ

◎社会分野

●コスモ・カスタマーセンターの開設

お客様からのお問い合わせに対する窓口を一本化したコスモ・カスタマーセンターを新たに開設し、より迅速な対応が可能となりました。 →37ページ

●社会貢献活動

「業績に左右されない長期継続」、「社員自らの参画」、「当社オリジナリティ」の3テーマを掲げ、本社を中心とした、交通遺児支援活動（コスモわくわく探検隊）、製油所を中心とした地域貢献活動（少年野球大会、サッカースクールなど）の諸活動を繰り広げました。 →36ページ

◎統合分野

●環境、安全に係る基本方針の明示

従来からの方針をより明確にするため、2001年2月に「地球環境委員会」において、「安全及び環境に関する基本方針」を制定しました。 →11ページ

●環境会計の導入

本年度より「環境会計」をスタートさせました。2001年度以降も継続して実施する予定で、環境経営のツールとなるよう、その精度を高めていきます。 →19ページ